山陽新聞社長賞（小学校・最優秀賞）

新聞感想文の部

残そう公共交通機関

岡山市・伊島小６年　**小椋　将史**

公共交通機関は地球温暖化を防ぐヒーローだ。一度に多くの人を運ぶことができる。自動車（マイカー）を使うのと比較すれば、一人あたり排出する二酸化炭素の量は比べものにならないほど少なくなる。

しかし、道路が整理され人口が減少する社会の中で利用者がどんどん減り、路線や本数も減り年々使いづらくなっているのが現状だ。ＪＲでは特に県北関係の落ち込みが大きいらしいが、県南でも乗車人数は増えてはいない。ぼくが六年前岡山に引っ越してきた時、岡山発で一日二十本走っていた快速サンライナーは今では十一本しか走っていない。

公共交通機関に大切なのは乗りやすさと使いやすさだ。富山のライトレールに乗って驚いたのはすべて低床車両で乗りやすく、本数が多いことだ。だから子どもからお年寄りまであらゆる世代の乗客が乗っていた。夏休みの平日の日中にもかかわらず、買い物の袋をかかえた人、街へ行く人から郊外の海辺へ海水浴に行く人や高校生まで多くの人が乗っていた。時々すれちがう他の車両も立っている人がいるくらい多人数だった。また、時間通りにじゅう滞なしで走ることもみ力だと思う。

大阪の地下鉄に夏休みに一日乗り放題切符を買って乗車したことがあるが、一番驚いたのは小学生が友達同士であるいは一人で、公共交通機関を利用するということだ。このような光景は、岡山ではあまり見られない。家族の運転する自動車で送ってもらったり、いっしょに出掛ける人が多い。路面電車やＪＲに乗るのは小学校の行事で出掛ける時に初めて利用したという人が、ぼくの周りにはたくさんいた。これもまた問題だ。

ローカル線などの公共交通機関を守らなければいけない。使いやすさや乗りやすさをぼくたちはどうすることもできない。駅やバス停近くに学校、店があることも必要だ。近年、公共交通機関関係にイベントも多く見られるようになったが、行きたいと皆が思う場所の紹介も大切だ。

ぼくが提案するスローガンは、「皆で乗って遊ぼう、公共交通機関」だ。路線廃止や井笠バス廃止倒産など暗いニュースもあるが、岡山市内に「めぐりん」が走るなど使いやすいものが増え、岡山駅も数年前と比べ大きくなった。公共交通機関の駅近くにもっと学校、店、住宅を増やし、使いやすいように便を増やしてもらい、ぼくたち子供の世代から利用する習慣をつけるため、校外学習で積極的に使っていく。そうして、公共交通機関という財産を守っていくことができたらと思う。

公共交通機関はこのままでいくと、日本中から消えてしまうおそれもある。消えてしまえば、必要になった時の復活は難しそうだ。

母から聞いた話だが、阪神淡路大震災の直後、道路は液状化したり大じゅう滞して物資がなかなか届かなかったが、ＪＲや私鉄は、比較的早く復旧していた。時刻表通りではないが、不定期に運転を再開していたため東や西へ、買い出しに出掛けた人が多かったそうだ。また、瀬戸大橋線の快速マリンライナーは強風や台風の影響で止まることが年に数回あるが、フェリーは鉄道が止まった後しばらくは動くので、鉄道利用者には、フェリーはいざという時の大切な交通手段だ。

これらから、どんなに自動車社会になっても不測の事態が起こった時のため、残しておかなければいけないのが公共交通機関だ。時刻表と路線図を持ってさあ出掛けよう。

どう守るローカル線

具体的対策これから検討

利便性向上へ増便や新駅

改革後も「綱渡り」の経営

まちづくりと一体で活用を

2012年7月8日付　山陽新聞

寸評　地域の「足」である公共交通機関をどう守るかを、自らの体験なども交えて強調した。利点や利用者増への提言、スローガンなど発想豊かに述べ、公共交通機関に対する熱い思いが伝わってくる。